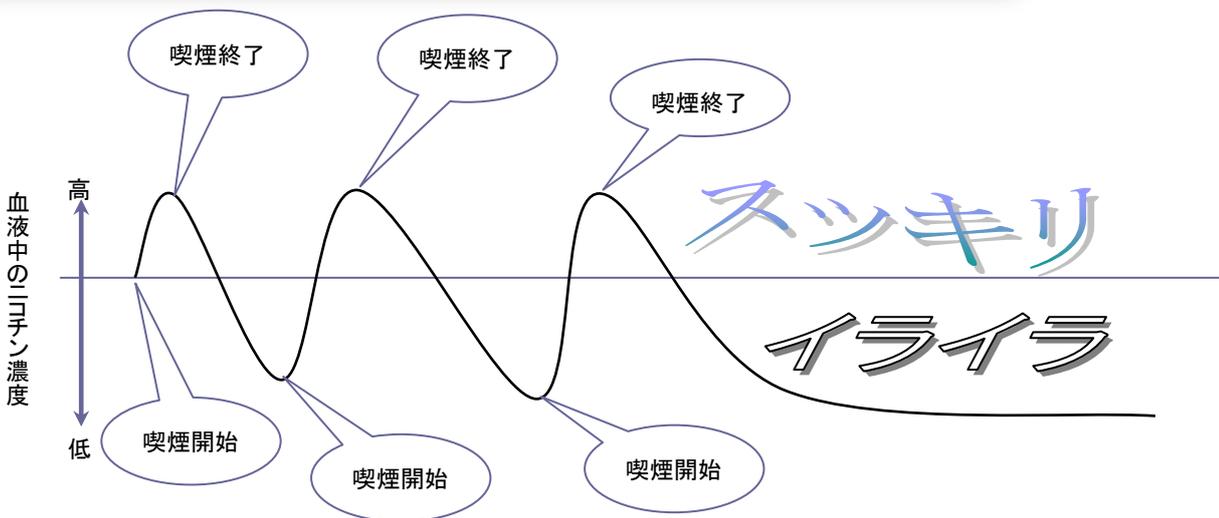
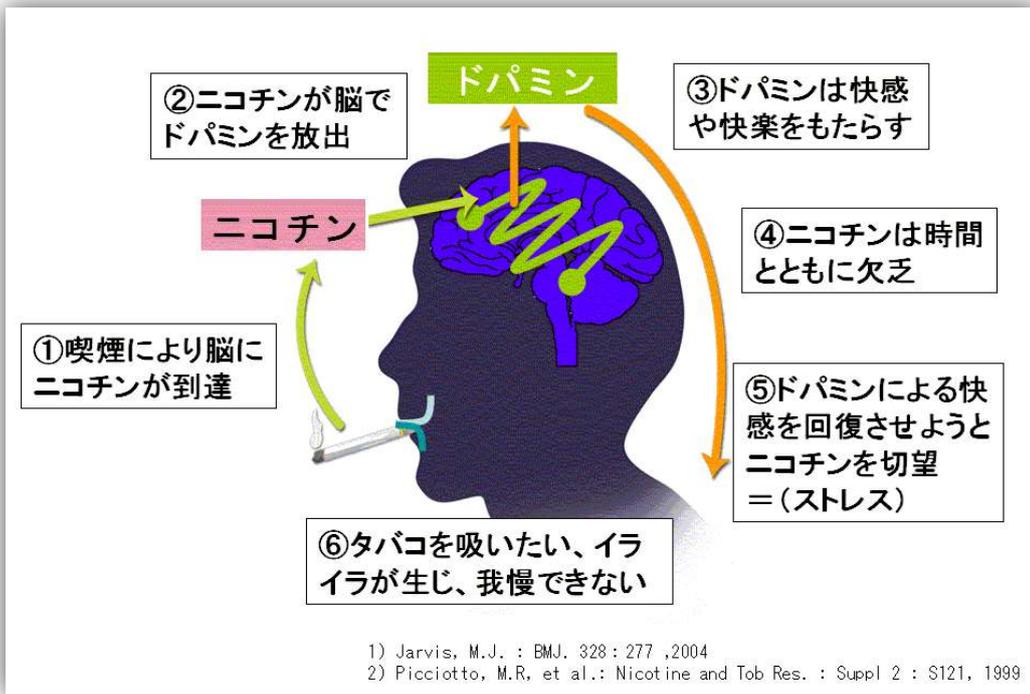


週刊 **タバコの正体**

前回、「ニコチン依存症になると、タバコを吸えばα波が出てリラックスできるが、吸い終わったあと脳波がゆっくりになる」という話を紹介しました。そのわけは、下図にあるように、タバコに含まれるニコチンが、脳内で“ドパミン”と言われる快感や快楽をもたらす物質を放出させるからです。

ドパミンはニコチンの力を借りなくても無意識にできる物質ですが、一旦、ニコチンの力でドパミンが放出される事を脳が覚えてしまうと、ニコチンに頼ってしまい、タバコを吸い続けなければならなくなるのです。

つまり、これがニコチン依存症です。



タバコを吸った時だけスッキリして脳からα波がでて、ニコチンが切れて来るとイライラして脳波がゆっくりになる事を繰り返す毎日を一生続けるなんて、ツライですね。

産業デザイン科 奥田 恭久